

国際交流基金援助事業報告書

薬学部 3年 C.H

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、2023年8月21日から8月28日までの8日間、カナダサマープログラムに参加しました。訪問都市はカナダのバンクーバーで、滞在中は各自のホームステイ先から現地学校の Cornerstone International Community College of Canada に通いました。

2. 渡航前に考えていた自分の目標

今回、サマープログラムに参加するにあたって、自身で定めた目標は英語力を高めることと、日本とカナダの医療の違いや異文化を見聞して視野を広げることでした。

3. その目標は達成できたか

1つ目の目標である英語力の向上については、日ごろから機会を見つけていろいろな人と積極的に話し、相手に伝わるように練習することが大事であると考えたので、レストランの店員や現地学校の先生などに自分から積極的に話しかけるようにしました。あらかじめ知らない表現などを調べておき、それらの表現を実際の話の流れで使うことで、多くの単語や表現を身に付けることができました。初めのうちは相手の話すスピードが速くて聞き取れないことが多くありましたが、諦めずに何度も聞き返したり、ゆっくり話してもらったりすることで、次第に聞き取れることが多くなりました。限られた期間の中でも話す機会を逃さずに過ごせたため、渡航前に比べて主にリスニング力が向上したのではないかと実感しています。

2つ目の目標については、日本とカナダでは医療や文化に多くの違いがあることに気づきました。日本でいつもは当たり前と感じていたことが、カナダでは当たり前ではないことが多くありました。自分と違う考え方や価値観を持つ人と関わることで、これまでの自分の考え方を見直すきっかけになりました。将来、薬剤師になった時にも、偏った視点ではなく、多方面から考えることが重要になります。カナダで過ごしたことで、普段は当たり前と感じていることも改めてもう一度考える必要であると思いました。視野を広げることができる貴重な経験になりました。

4. これからの自分の成長に向けて

今回の渡航で、積極的に行動することと固定概念や偏見にとらわれることなく物事を考える重要性を学びました。新たな経験や交流は多くのことを知ることができ、それによって自分の考え方を変えることができます。これまでの学生生活は勉強が中心で、授業で学ぶことだけに目を奪われて過ごしていましたが、日本でもまだ自分が知らないことや経験したこ

とがないことが多くあるので、色々なことに積極的に挑戦し、より視野を広げていこうと思いました。

5. 医療施設の見学

医療施設の見学では、カナダの薬局と病院を見学しました。医療制度やそれぞれの施設の役割が日本とは違っていたので驚きました。薬局の訪問の際には、実際にカナダで働いている日本人薬剤師の方からお話を聞くことができました。カナダの医療制度では、病気や体調不良になった場合、まず家庭医の診察を受け、必要に応じて専門医や総合病院への紹介をもらい、その後に診察の予約をして専門医による診断を受けることを知りました。診療や治療は保険適用であるため無料であるものの、薬は自己負担になることも知りました。また、カナダの薬剤師は調剤業務や服薬指導をするだけでなく、薬剤師の判断で緊急患者への処方、服薬量や期間の調整などが行われる場合もあることが分かりました。さらに、薬局には調剤テクニシャンがいることで薬剤師の対物業務の負担が減り、患者ケアや医師との薬物治療の共同作業など、対人業務に集中できる体制になっていることも分かりました。右の写真は、実際に私たちが薬局を訪れた時の写真です。手前の女性2人がテクニシャンで、奥の男性の方が薬剤師でした。3人とも大変忙しそうでしたが、薬剤師の方が患者一人一人の電話に出て相談に対応できており、日本にはないテクニシャンの役割は重要であることが分かりました。



6. 語学研修

大学で受ける英語の授業では、薬学部であるために薬学英语を中心に学習していますが、サマープログラムは医・薬・看の3学部合同で行われたため、現地学校の CICCC では、薬



学英语では学ばない、医者や看護師がよく使う英語の表現や単語も学習しました。特に興味深かった授業は、痛みの表現でした。自分で例文を作成し、ペアワークで練習することでどのような場面で使用すべきかなどを知ることができました。たくさんの単語を覚える必要がある単元ときには、先生がゲーム方式で授業してくださったため、楽しく覚えることができました。私たちが分からない単語

があったとき、先生はすぐに日本語を調べるようには言わないで、他の英語表現を使って説明してくださったので、とても勉強になりました。楽しみながら多くのことを学習することができたので、とても有意義な時間になりました。

7. ホームステイ

カナダに滞在中は、既に 2 人の日本人留学生を受け入れているフィリピン人のホストマザーのお宅に滞在させていただきました。ホストマザーは、会話の中で私が分からない言葉について意味を訊ねるとひとつずつ丁寧に教えてくださいました。私は以前に留学した時、聞き取れなかった英語を聞き返すことができなくて、意味を理解しないまま曖昧に返事をしてしまうことがありました。今回は、ホストマザーが家のルールを説明する時に、分からなければ何度でも聞いていいので、英語を理解しないままにしないほうが良いと言ってくださったので、以前よりしっかりと内容を理解しながら会話することができました。食事も日本ではあまり食べる機会のないフィリピン料理だったので、貴重な体験をすることができました。また、他学部 に 在籍する 2 人の日本人留学生ともたくさん話すことができました。薬学部では全員が同じ目標に向かって過ごしているため、全く違う目標を持っている人たちと話す機会を得て、自分とは違う考え方を聞くことができました。私にとって新鮮な考え方を知り、物事をもっと色々な方面から考えることができることに気づくなど、とても有意義な時間を持てたことも今回の留学の大きな収穫でした。



8. おわりに

このサマープログラムでは、年齢、人種、過ごしてきた環境が異なる人たちと多くかかわり、カナダの文化や自然にもたくさん触れる機会があり、貴重な体験をすることができました。価値観や文化の違いから、今まで注目してこなかった事柄に対して、改めて考え直すことができました。

そして、現地の人々と話をする中で、やはり言葉の壁はあって、聞き取れることはできても、自分の思い全てを英語に直すことはできませんでした。知っている表現と単語の組み合わせだけで会話していたので、もっと英語が話せたらともしどかしく思うことが何度もありました。これからもこの思いを忘れずに、さらに英語の勉強に励んでいきたいと思います。普通の旅行では決して体験できないホームステイや医療施設見学などができて、とても良かったと感じました。今回の留学で経験したり学んだりしたことを活かして、これからの過ごし方していきたいと思っています。

